



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 53

第3回 GEOSS アジア太平洋シンポジウムにおける地球地図の発表

鶴生川 太郎

ISCGM 事務局

第3回全球地球観測システム（GEOSS）アジア太平洋シンポジウムが、観測、予測及びデータ共有の強化に関し、気候変動、水資源管理、生態系維持及び災害の分野で協力体制の増強をはかる方法を探るために、「アジア太平洋地域における分野横断的なデータ共有」をテーマとして2009年2月4日～6日に京都で開催されました。シンポジウムには、政府、学術及び産業界から約250名の参加者が集い、期間をとおして発表と意見交換が行われました。

国土地理院はISCGM事務局としてシンポジウムに参加し、地球地図プロジェクトを紹介しました。

2月5日の「気候、水循環及び災害の実現性のある分野間連携に向けて」をテーマとする分野間連携合同分科会において、ISCGM事務局長の福島芳和が地球地図プロジェクトの概要を発表しました。



福島 ISCGM 事務局長の発表

地球地図は、シンポジウム期間中、会場のバンケットホールにおける展示でも発表されました。国家地図作成機関による全球土地被覆（GLCNMO）及び全球樹木被覆の全体図など、3枚のポスターが会場入り口の壁に掲示され、観衆の関心を集めました。また、地球地図のパンフレットも参加者に配布されました。

本シンポジウムに引き続き、2月9～10日にGEOSS構造及びデータ委員会が開催されました。ISCGM福島事務局長は、ISCGM・GSIがリードするGEOタスクDA-06-05「基盤的地理情報に関するガイドライン」を発表しました。ガイダンス文書が基盤的地理情報に関する調査及びGEOの社会利益領域（SBAs）のタスクシートをもとに作成されました。地球地図はGEOSSのSBAsに最適なプロジェクトであるということがわかりました。地球地図はGEO作業計画の1つ（US-09-03a）をとおして継続的にGEOSSと連携します。次回のGEOSSアジア太平洋シンポジウムはインドネシアにおいて開催される見込みです。



地球地図ポスターの展示

地球地図利活用ワークショップの開催報告

中村 孝之

国土交通省総合政策局国際建設推進室国際協力官

国土交通省は、平成21年3月8日（日）、東京都内において地球地図利活用ワークショップを開催しました。

国土交通省は、「地球地図アプリケーション戦略」（平成16年、地球地図アプリケーション戦略委員会（委員長：月尾嘉男東京大学名誉教授））に基づき、「地球地図の学校」を始め、環境、防災、教育等の各分野においてモデル事例を推進するなど、利活用拡大に努めてきました。これまでの取組は、地球地図プロジェクトの認知度向上や、地球地図の有用性や利活用の可能性の理解促進に重点を置いたものでした。昨年、全球陸域をカバーする土地被覆、樹木被覆率データが完成し、また、「地球地図を使いたい具体的などのようにすればよいか詳しく知りたい」との声も多く聞かれるようになりました。このため、今回のワークショップでは、国際貢献、国際交流等の具体的な活動に地球地図を役立てていただくため、コンピュータを用いた実習と意見交換を行いました。当日は、環境・防災関係のNGO、研究機関、教育関係者等約50名の参加がありました。

午前中は、地球地図プロジェクトの概要説明、地球地図データ及び利活用事例の紹介を行いました。国土交通省から、地球地図プロジェクトの概要、気候変動対策等への活用可能性について述べました。引き続き、具体的な利活用事例として、太田弘慶應義塾普通部教諭 / フェリス女学院大学講師 / 「地球地図の学校」実行委員長から「地球地図の学校」の取組等について、納谷淑恵NPO法人グローバルプロジェクト推進機構・防災世界子ども会議実行委員長 / 兵庫県立川西高等学校教諭から、災害安全マップの国際協働作成等について紹介がありました。また、地球地図国際運営委員会（ISCGM）事務局から、地球地図データの詳

細やGISの基礎について説明がありました。

午後は、簡易型GISソフトを用いた地球地図のデータ処理の実習と利活用の意見交換を行いました。実習では、ISCGMのHPからダウンロードした地球地図データの読み込み、データの入力編集、写真等の地図上への貼り付け、データ検索、CSVファイルのインポート、グラフ・色分け表示等を行いました。データやその処理について様々な質問が出るなど、熱気がありました。意見交換会では、今後の国際活動に是非役立てていきたいという表明や、地球地図が様々な地理情報を共有するプラットフォームとなることへの期待、ワークショップの地方開催要望などが述べられました。

今後もISCGM事務局や関係機関と連携し、地球地図利活用促進に取り組んでまいりたいと考えています。



ISCGM事務局（国土地理院）からの説明



実習風景

コロンビア大学における地球地図の利用

ジェレミア トリニダット-クリステンセン
コロンビア大学図書館
GIS・地図司書

ISCGM 事務局では、コロンビア大学図書館における地球地図の利用を紹介いたします。

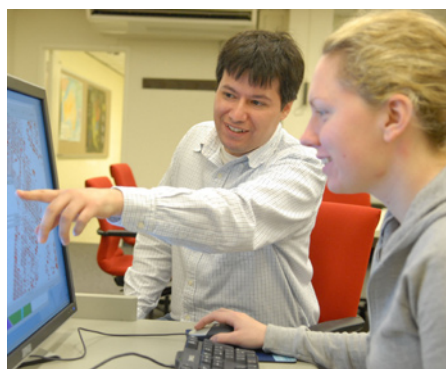
The screenshot shows the Columbia University Spatial Data Catalog interface. At the top, it says 'CU Home' and 'COLUMBIA UNIVERSITY IN THE CITY OF NEW YORK'. Below that is the 'CU SPATIAL DATA CATALOG' header. A search bar contains the text 'iscgm' and shows 'Your search returned 76' results. The first result is 'Australia Airports' by the Australian Surveying and Land Information Group (AUSLIG) from 2000. The abstract describes it as a point theme representing airports and airfields in Australia, part of a 1:1,000,000 scale framework dataset. A small map of Australia is visible on the right side of the result card.

2008年3月、私たちはISCGMの地球地図データをコロンビア大学空間データカタログ (<http://gis.columbia.edu/data.html>) に掲載する許可を得ました。このデータセットは、本学の学生、学部やスタッフのための貴重な資源となり、広範な項目を網羅するコロンビア大学の様々なクラス・プロジェクトや研究での利用のためにベースレイヤ・データを提供することで、私たちのコレクションのすき間を埋めています。しかし、もとのフォーマットは、作業のためにデータを準備する際、本学のほとんどの利用者が持たない技術を必要としました。

データセットを、ベクター・レイヤについてはシェープファイルに、ラスター・データはESRI GRIDで利用できるようにするため、許可を申請しました。また、レイヤに軽微な処理を施しました。本学の利用者がエリアを全体とし、彼ら独自の研究データと結合することに関心を持ったため、ポリゴン・レイヤについては地物をマルチパート・ポリゴンに変換し、タイル参照を削除しました。それぞれのラスターデータセットでは、複数のタイルが1つのレイヤにまとめられ、4レイヤのそれぞれについて1つのタイルで入手可能となりました。それぞれのデータセットについて、図書館のGISメタデータ司書により、地球地図のサイトから入手できる文書を用

いてFGDCメタデータ記録が作成されました。次に個々のレイヤはzipファイルに圧縮され、メタデータ記録がダウンロードのリンクとともにカタログに格納されました。

コロンビア大学空間データカタログは、スキャンした地図を含むライブラリー・コレクションの中の空間データを、学生、学部やスタッフに配布するための手段として、2007年の終わりに稼動し始めました。カタログのデータの大多数はパスワードで保護され、現在のコロンビア大学の利用者にはのみ入手が可能となっていますが、誰でも利用可能なデータがわずかにあります。データは、当館のスタッフが調整・作成したFGDCメタデータ記録の選択したフィールドを用いて検索できます。



作業中のジェレミア トリニダット-クリステンセンさん

事務局から

地球地図第2版の仕様改訂のための国際ワークショップ開催

国土地理院とISCGMは、より使いやすい地球地図に向けた新仕様案、新データ形式案を作成するための、ワークショップを開催します。

○開催日 2009年9月8日（火）～10日（木）

○会場 日本国 茨城県つくば市北郷一番
国土交通省国土地理院

○予定プログラム 第1日目 開会、地球地図全般及び仕様改訂に関する取り組み（オープン参加予定）
第2日目 仕様案の検討
第3日目 仕様案の検討、まとめ・閉会

事務局では、詳細が決まり次第、ISCGM サイト（www.iscgm.org）等でお知らせします。
地球地図ワークショップに関する質問などお待ちしておりますので、お問い合わせください。

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2008年12月25日に前回のニュースレターが発行されて以降、モーリシャス（1月16日）の地球地図が公開されました。現在、164カ国/16地域が地球地図プロジェクトに参加しています。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2009年

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・4月28日～5月1日、エチオピア、アディスアベバ
CODIST-1 第1回開発情報科学技術委員会会合 ・5月3日～8日、イスラエル、エイラト
FIGワーキング・ウィーク及び第32回総会 ・5月28日～29日、ノルウェー、モルデ
第28回ISO/TC211本会議 ・6月15日～19日、オランダ、ロッテルダム
GSDI 11会議（ISCGM 非公式会合予定） ・7月12日～16日、英国、イングランド
CC: The Exchange ・8月10日～14日、米国、ニューヨーク
UNRCC-Americas 会議 ・9月9日～12日、中国、北京
第6回デジタルアース国際シンポジウム | <ul style="list-style-type: none"> ・9月8日～10日、日本、つくば
地球地図ワークショップ ・10月25日（予定）、タイ、バンコク
第16回ISCGM会合 ・10月26日～30日、タイ、バンコク
第18回UNRCC-AP会議
第15回PCGIAP会合（同時開催） ・10月26日～29日、ウガンダ、カンパラ
アフリカGIS 2009 ・11月15日～21日、チリ、サンティアゴ
第24回国際地図学会議（ICC 2009） ・11月17日～18日、米国、ワシントンD.C.
GEO- VI |
|---|---|



NEWSLETTERは地球地図情報紙として、世界中の国家地図作成機関や地球地図データ利用者など1,200名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ：<http://www.iscgm.org/>

E-mail：sec@iscgm.org